

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク第7期事業報告書

2017年4月1日から2018年3月31日まで

1 事業の成果

第7期は、2011年の活動開始から約6年間拠点としてきた石巻駅前ビルから主たる事務所を移転、心機一転、石巻市元倉一丁目の新事務所で幕を開けた。
 第7期は管理部門を合わせて12の事業を実施。事業は、4本の柱で構成している。一つ目の柱である「女性の活躍推進」では、第5期Eyes for Future byランコムを開講、19名の女性が起業育成コースを修了した。また過去の受講生が自身の希望する科目を選択受講できるフォローアップコース(履修生)には6名が参加した。期間中に1名が起業、5名が事業拡大に取り組み(ランニング分野1名、教室分野3名、教育分野1名)、第3回石巻市創業ビジネスグランプリにおいて、2名が優秀賞を受賞した(「女性ドライバーによるタクシー運行事業」(高橋信子さん)、「石巻の特産を生かした天然アロマ芳香剤の製造販売事業」(鈴木おり絵さん))
 当年度は、新事業として宮城県からの委託および補助金により、「みやぎの女性活躍促進拠点づくり」モデル事業ならびに「宮城県子育て女性就職支援拠点育成事業」を実施。前者では、子育て中の女性の就職に関する相談業務を実施、後者はそれに加え、関東や関西の女性活躍支援において先行する事業所を視察するとともに、女性の雇用について、地元女性や企業にアンケートを実施した。当事業は3年間の県からの補助期間中に、自立的な運営体制を整えることを予定している。
 また年度途中より、「やっべすスクールこっとな事業」を開始。子育て中の女性のスキルアップを図る、パソコンや面接などの講座の後に、市内7つの事業所にて、インターンシップを実施した。受講した11名の女性たちの再就職への不安解消に貢献した。カナダ式親育てプログラムNP(Nobody's Perfect)は、「しんきんの絆」復興応援プロジェクトの助成と自己資金により、当年度も合計4期を実施、23名の母親たちが、プログラム参加を通じて子育てに関する悩みと向き合うことができた。
 二つ目の柱「被災者のコミュニティ形成支援」では、当年度も引き続き「やっべす隊がやってくる！」と題して、年間117回のサロン活動・イベントを仮設住宅や復興公営住宅の集会所にて開催。のべ2,027名の参加があり、閉じこもりがちな、仮設住宅や復興公営住宅での暮らしの中での外出の機会をつくり、住民の孤立化を防ぎ、既に復興公営住宅でも起こっている孤立死の防止に繋げることができた。また、これまでの当団体による仮設住宅での支援活動の経緯を振り返り、1冊にまとめたマニュアルも作成した。
 三つ目の柱である「復興の担い手育成」では、「石巻に恋しちゃった」や「コワーキングスペース運営」を継続事業として実施中である。「石恋」は、みやぎ地域復興支援助成金の支援の下、記念すべき第10回石巻に恋しちゃった(達人102名(内新達人33名)が体験プログラムを提供)と、海の日の恒例である「サン・ファン石恋まつり」を実施、合わせて参加者は2,877名を数えた。2018年2月には、地域の人たちと、講師を探すと地元教育機関などをつなぐ見本市「石恋博覧会」を開催、当イベントの成功から、今後は「石恋博覧会」を中心に事業を進めていく。なお当団体が主体となる「石巻に恋しちゃった」は第10回をもって終了、今後は運営委員会主催による取り組みとし、第8期はそこに事務局として協力していく予定である。
 コワーキングスペースでは、石巻市の創業支援事業計画に位置付けされた「特定創業支援事業」として、創業経営のための基本セミナーを2回(参加者計22名)実施、10名が特定創業支援事業を受講したことの証明書を取得した。また、計8回の起業家交流促進事業(参加者計109名)と、「起業家の為の戦略的思考術」「持続可能な地域社会をつくる SDG'sセミナー」と題したオリジナルセミナーを計2回開催、起業家たちの交流やステップアップを支援した。その他、年間156件の経営相談依頼に対応、地元起業家・経営者たちの事業計画策定や補助金申請等についてサポートを行った。
 四つ目の柱である「震災の教訓を伝える」では、復興コーディネート事業とグッズ販売事業を実施。復興コーディネート事業では、昨年度より多い、1000名以上の社会人・学生らのボランティア活動や視察を受け入れた。またグッズ販売では、無事かえるシリーズの第4弾、キッズリュックの監修・販売に協力した。
 なお、今年も3月9日に東京にて活動報告会を実施、また平成29年度ふるさとづくり大賞内閣総理大臣賞に選定され、同日、総理官邸にて表彰を受けた。

2 事業に関する事項

事業名	事業内容	事業実施日時・期間	事業実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)	
女性の活躍推進	1 Eyes for Future by ランコム	石巻市及びその周辺の市町村に住む女性に対し、講座の実施や起業家支援を行う。	通年(前期からの継続事業) (開講期間は2017年3月～10月)	石巻市内の会場	3	石巻市及びその周辺の市町村在住の女性	8,861
	2 子育て女性就職支援拠点育成事業	石巻市及びその周辺の市町村に住む女性に対し、就労相談窓口を開設。女性の就労に関する意識調査を、女性と企業を対象に実施。「男は外で仕事、女は家」のような性別役割分業意識化解消に向けたイベントの実施。	通年(3か年計画事業) (期間は2017年10月～2018年2月)	石巻市内の会場	4	◆石巻市及びその周辺の市町村在住の女性 ◆石巻地域の事業所	
	3 女性の就労を応援します！やっべす！スクールこっとな	石巻市およびその周辺地域に住む、子育て中の女性を対象に、講座や社会的企業でのインターンを実施する。	2017年7月～2018年3月	石巻市周辺の会場、企業、団体	3	石巻圏域で子育てする母親、求職中の女性	
ママ子ども支援事業	4 ママ・子ども支援事業	◆やっべす！ママ子ども食堂 ◆癒しデー、親子向けワークショップの実施 ◆子育て相談会の実施 ◆NPプログラム	通年(前期からの継続事業)	コミュニティスペースパタフライ(石巻) 石巻中央公民館など	3	◆子育て中の母親 ◆新しいチャレンジをしたい地域の女性	3,260
内職コーディネート	5 Amanecer	アクセサリーを取り扱うECサイトの運営	通年(前期からの継続事業)	石巻市内 (販促地域は全国)	3	石巻市及びその周辺の市町村在住の乳幼児を持つ母親	1,367
	6 おうちごと	手仕事(制作)を依頼したい企業と共同で、ママたちへ内職を提供している	通年(前期からの継続事業)	石巻市	2	石巻市及びその周辺の市町村在住の女性	
被災者のコミュニティ形成支援	7 やっべす隊がやってくる(仮設住宅・復興公営住宅)	石巻開成・南境地区の仮設住宅集会所やサロン活動やイベントを開催する。復興公営住宅の集会所では、石巻市社協や他団体と連携し住民のニーズに合ったサロン活動やイベントを開催する。	通年(前期からの継続事業)	石巻市開成・南境地区の仮設住宅団地集会所や石巻市内の復興公営住宅集会所及び地域の会館等	4	石巻市開成・南境地区の仮設住宅団地住民、石巻市内の復興公営住宅住民及び近隣住民	8,274

2 事業に関する事項

事業名		事業内容	事業実施日時・期間	事業実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
復興の担い手育成	8	石巻に恋しちゃった♡事業	石巻・東松島・女川の地域資源の発掘・発信およびそこに暮らす個人の趣味や特技、地域の魅力を活かした体験プログラムを一定の期間に実施し、一人一人のチャレンジを応援する。	石巻圏域	3	◆達人:石巻市、東松島市、女川町にお住まいか 在学、通勤している方および ご出身の方 ◆参加者:全世界	7,383
	9	地域起業・新事業活動拠点運営事業	宮城県内の事業者に対し、セミナー等の創業支援と交流サロン等のコミュニティ創造。醸成事業を行う。	石巻市内	3	◆宮城県内にて事業を営む 事業者や経営者 ◆又、潜在している起業家	9,357
震災の教訓を伝える	10	石巻復興コーディネート事業	被災地での支援活動を希望する個人、企業、NPOに対し視察、ボランティア、研修などのプログラムを企画し、提供する。	石巻市及びその周辺地域	6	被災地での人材研修、ボランティア作業および視察を希望する個人、企業、NPOなど	5,565
	11	グッズ販売	無事かえるシリーズの商品監修、販促	全国各地	3	全国の支援者	215
管理部門および共通	12	管理部門および共通	<ul style="list-style-type: none"> ◆拠点の引越し ◆規定およびルールの策定 ◆全体mtgの運営 ◆理事会、総会の開催とその準備 ◆監督官庁への報告 ◆事業計画と事業報告の作成 ◆総務 ◆経理 ◆人事(新スタッフの募集) ◆メルマガ(やっべす通信)の発行(月1回) ◆ブログやFB、Twitterでの情報発信 ◆「やっべすの輪、活動報告会」 ◆年次報告書(2016年度)の作成 ◆各種取材、調査やアンケートへの対応 ◆助成財団や支援者、行政や関係各所とのやりとり ◆寄付対応 ◆NPO連絡会議への幹事団体としての参加 	事務所	4		

石巻復興支援ネットワーク 第7期(2017年4月～2018年3月)事業報告

定款第5条における事業	事業の柱	事業名	収益/非収益	事業の目的	事業内容	事業実施日時・期間	事業実施場所	事業マネージャーおよびスタッフ	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	活動資金	今期の事業の成果(アウトプット)・何回開催した、など「やったこと」「できたこと」	今期の事業の成果(アウトカム) ⇒左の結果、地域に「起こったこと」	今後の課題	第8期以降の展開イメージ、課題
(5)石巻市内における雇用の創出及び起業促進等関連する事	女性の活躍推進	Eyes for Future by ランコム	非収益	石巻地域の女性の自立と社会参画を推進し、それにより、復興とその先のまちづくりにおける力とする。	石巻市及びその周辺の市町村に住む女性に対し、講座の実施や起業家支援を行う。	通年(前期からの継続事業) (開講期間は2017年3月～10月)	石巻市内の会場	小野七菜、松坂久子	3	・石巻市及びその周辺の市町村在住の21歳以上の女性	ランコム、日本ロレアル(株)からの寄付金、自己資金	◆新規女性起業家サポートコースは、19名が修了。 ◆単価受講履修生が6名修了。 ◆第6期募集について、24名が応募、単価受講履修生8名を含む21名が受講をスタートした。	◆アンケート結果より:女性起業家サポートコース受講生の99%が「満足/ほぼ満足」、97%以上が「良く理解できた/理解できた」と回答。 ◆期間中に1名の方が起業、5名の方が事業拡大に取り組んだ(ランコム分野1名、教室分野3名、教育分野1名、)。 ◆第3回石巻市創業ビジネスグランプリでは「女性ドライバーによるタクシー運行事業」(高橋信子さん)、「石巻の特産を生かした天然アロマ芳香剤の製造販売事業」(鈴木おひささん)が優秀賞を受賞した。	◆市役所や県との連携体制の強化。 ◆自立的な運営体制の構築。	◆第6期Eyes for Future byランコムは3月24日より開講。今期は「起業家サポートコース」とこれまでの修了生を対象とした履修コースを開講。 ◆開講式での池上彰氏(ジャーナリスト)による公開講座をはじめ、重たみゆき氏(印象評論家)によるコミュニケーション講座、高橋康次・山中礼二(グロービス経営大学院教員)によるビジネス講座や日野一義(税理士)による財務講座など、よりビジネスの実践に即した講座へと刷新。 ◆ランコムプロフェッショナルスタッフによる美容講座、高畑哲平氏(KDDIウェブコミュニケーションズ)によるホームページ制作講座のほか、選ばれし21名の受講生が起業したり、各々のビジネスにおいて成果を上げることを期待している。 ◆Eyes for Future byランコムは、第6期で終了予定。
(5)石巻市内における雇用の創出及び起業促進等関連する事		子育て女性就職支援拠点育成事業	非収益	石巻地域の女性の自立と社会参画を推進し、それにより多様性のある社会づくりと子育てしやすい地域づくりにおける力とする。	石巻市及びその周辺の市町村に住む女性に対し、就労相談窓口を開設。女性の就労に関する意識調査を、女性と企業を対象に実施。「男は外で仕事、女は家」のような性別役割分業意識化解消に向けたイベントの実施。	通年(3か年計画事業) (期間は2017年10月～2月)	石巻市内の会場	兼子佳恵、小野七菜、柏原とし子、平塚真子	4	・石巻市及びその周辺の市町村在住の女性 ・石巻地域の事業所	宮城県による委託および補助金	「みやぎの女性活躍促進拠点づくりモデル事業」業務(6～9月) ◆支援者数:個別相談利用者のべ39件 「宮城県子育て女性就職支援拠点育成事業」(10～2月) ◆支援者数:個別相談利用者のべ14件(8名) ◆参加者数:性別役割分業意識解消イベント18名:アンケート調査目的イベント「やっべすもってって広場」24名;おやつづくりを目的とした「かんたんおやつづくり」38名 ◆調査数:アンケート実施数650件(母親150名、企業500社) ◆女性の社会参画推進における先進地域への視察:計10か所 ◆事業に関連する研修への参加:子育て支援員研修など	◆性別役割意識の解消 ◆予算内での運営 ◆外部協力者との連携	◆平成30年度は、アンケート集計に基づき、必要とされる支援についてまとめる ◆子ども同伴での就労相談窓口を継続し、子育て中の女性の就労に向けた座談会及びセミナーの開催、SNSを利用した就職情報やお役立ち情報の提供を新設する。 ◆子育て中の女性の雇用に関心のある企業と女性を対象にした就職説明会を開催する	
(3)石巻市及びその周辺非営利活動団体、企業、自治等とネットワーク形成に関する事		女性の就労を応援します! やっべす! スクールこっこん	非収益	子育て中の母親の就職支援に取り組み、育児の数年間のブランクからの不安を減らし、育児中の母親と地域社会をつなぐことを目的とした事業である。	石巻市およびその周辺地域に住む、子育て中の女性を対象に、講座や社会的企業でのインターンを実施する。	2017年6月～2018年3月	石巻市周辺の会場、企業、団体	松坂久子、高橋亜樹ほか	4名	石巻圏域で子育てする母親、求職中の女性	◆平成29年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金 ◆自己資金	◆受講生:11名が修了。 ◆インターンシップで受講生を受入するNPOや社会的企業:7団体 ◆インターンシップ活動報告会への参加者:14名 ◆インターンシップ先への就業:2名 ◆事業報告書の作成:1000冊	◆地元のNPOでインターンシップをし、地域の課題とそれに向き合う活動に直接触れることができた経験から、社会貢献の意欲が高まり、NPOへの就職を希望する受講生が居た。その女性はこの4月からNPOへの就職することができた(1名)。 ◆今回のインターンシップの経験から、組織の人材マネジメントを見直すことに繋がった団体もあった。中には、平常時からインターンシップ制度の導入を検討している団体もある。 ◆コミュニケーション講座、セルフケア講座を通して、周囲の人との上手な関わり方を学び、自己の守り方を知ることによって、自己肯定感を上げることができた。 ◆パソコン講座を集中的に実施することで、苦手意識が薄らいだ。 ◆女性の力が十分に発揮される地域づくりに至ることは、一朝一夕にはいかないが、今回のスクールでは、講師陣もほとんどが地域の女性が担当しており、受講生たちが、先輩女性の活躍を目の当たりにすることで、地域で活躍する女性のロールモデルとして、具体的なイメージを持つことができたと考えている。受講生たちには、近い将来、女性が活躍する地域づくりの一翼を担って欲しいと切に願っている。	◆事業の継続 ◆中期的な事業計画の策定	NPO等でのグループ研修やキャリアプランについて考える個人WSも取り入れる形での継続開催を計画中。
(7)本条各号に定める事業施設等の管理運営に関する事		ママ・子ども支援事業	非収益	地域の母親たちが気軽に集い、悩みを共有できるコミュニティスペースを運営することで、子育て中の母親たちの孤立を防ぐとともに積極的に活動する母親たちのチャレンジを応援し、子育てしやすいまちづくりを進める。	◆やっべす! ママ子ども食堂 ◆癒しデー、親子向けワークショップの実施 ◆子育て相談会の実施 ◆NPプログラム	通年(前期からの継続事業)	コミュニティスペースバタフライ(石巻)石巻中央公民館など	高橋亜樹、小野七菜、遠藤仁美		◆子育て中の母親 ◆新しいチャレンジをしたい地域の女性	◆キリン福祉財団助成金 ◆積水ハウスマッチングプログラム ◆「しんきんの絆」復興応援プロジェクト 第4回助成 ◆自己資金	◆イベント回数:40回 参加のべ人数:263人 ◆子育て相談会回数:10回 参加のべ人数親子32組 ◆やっべすママ子ども食堂回数:12回 参加のべ人数:親子77組 ◆NPプログラム参加者数、合計23名。(17期6名、18期6名、19期4名、20期7名) ◆NPファンリテーターミーティング第2回7名、第3回10名 ◆パパのための子育てスキルアップ講座参加者5名、4名、5名、4名 ◆NP事業報告会開催 参加者9名 ◆NP事業報告書作成(500部)	◆地域の母親たちの孤立の解消 ◆親子の居場所、コミュニティづくり	◆ママ子ども支援に関するイベントや講座の実施 ◆コミュニティスペースとしての利用方法を検討する必要がある。 ◆NPは石巻市地域づくり助成金で実施、2019年度以降は生涯学習課と協働で実施予定	
(5)石巻市内における雇用の創出及び起業促進等関連する事		Amanecer	収益	小さい子どもをもち、引きこもりになりがちな母親たちの社会参画の機会を創出する。	アクセサリーを取り扱うECサイトの運営	通年(前期からの継続事業)	石巻市内(販促地域は全国)	兼子佳恵、兼子政慶、松坂久子	3	石巻市及びその周辺の市町村在住の乳幼児を持つ母親	自己資金	◆年間売上:¥233,634(2018年3月まで) ◆制作者雇用数:1名 ◆九州北部豪雨緊急支援募金プロジェクト実施募金額¥7,948	◆支払い内職賃 ¥9,750	◆外的要因、内的要因に左右される現状を打破し、収益事業としての機能を果たせる様尽力したい。 ◆制作者とアイデアや意見を出し合える機会をつくり、新作デザインへ反映したい。 ◆資材の在庫	来期も継続はするが、震災風化やコロナ禍による(plage)との継続コラボレーションが困難となり売上が著しく低下しているため、方針を売上ベースからストーリーベースとする。 具体的な、制作者や製作地など、商品ストーリーを前面に押し出し商品開発や生産は商品開発/年2商品、新商品リリース時生産数/2～3ヶと減少させ人件費や資材費をカットする。
(5)石巻市内における雇用の創出及び起業促進等関連する事		おうちしごと	収益	外で働けないママたちが収入を得る機会を作るための事業	手仕事(制作)を依頼したい企業と共同で、ママたちへ内職を提供している	通年(前期からの継続事業)	石巻市	兼子政慶、松坂久子	1	石巻市及びその周辺の市町村在住の女性	(株)イストワール、ザ・ボディショップ、アズボヌール、ソリサ、アンプローズからの制作費、管理費	◆(株)イストワール 値札シール、札下げつけ 31,876個 アクセサリー制作 ピアスイヤリング 213個 ヘアアクセサリー 149個 シェリープレスレット 1,042個 ◆ザ・ボディショップ 2018サクラチャリティポーチ制作 2,500個 ◆アズボヌール革製品制作 iPhoneケース 6個 リング 46個 ヘアゴム 16個 ピアス 21個 ◆アンプローズ アクセサリー制作 ビクルスプレスレット 1,042個 ◆ソリサ アクセサリー制作 シルクコードプレスレット 51個 淡水パールネックレス 30個 コードプレスネックレス 42個 歯がため 68個 シリコンネックレス 22個 コットンパールネックレス 17個	◆延べ25名へ内職を依頼 ◆支払い内職賃 ¥760,520(2018年3月まで)	◆内職希望者が増えているが、提供できる内職がない。 ◆企業からの依頼が減っている。 ◆個人でショップ展開している方からの依頼が増えたが、技術面での個人差があり制作者が偏りがちになる。 ◆ワークショップの定期開催をし、技術面のフォローをする。	◆イストワール 値札上げ、アクセサリー制作 ◆アズボヌール 革小物制作 ◆ソリサ アクセサリー制作

石巻復興支援ネットワーク 第7期(2017年4月～2018年3月)事業報告

定款第5条における事業	事業の柱	事業名	収益/非収益	事業の目的	事業内容	事業実施日時・期間	事業実施場所	事業マネージャーおよびスタッフ	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	活動資金	今期の事業の成果(アウトプット)・を何回開催した、など「やったこと」「できたこと」	今期の事業の成果(アウトカム)⇒左の結果、地域に「起こったこと」	今後の課題	第8期以降の展開イメージ、課題
(4)石巻市内における障がい者、高齢外国人難病患者その他マイノリティに対する支援	被災者のコミュニティ形成支援	仮設住宅・復興公営住宅		石巻開成・南境地区の仮設住宅団地および石巻市内数か所の復興公営住宅集会所にて、コミュニティ形成と住民の生きがい創出のためにサロン活動やイベントを開催し、孤立死を防止する。	石巻開成・南境地区の仮設住宅集会所やサロン活動やイベントを開催する。復興公営住宅の集会所では、石巻市社協や他団体と連携し住民のニーズに合ったサロン活動やイベントを開催する。	通年(前期からの継続事業)	石巻市開成・南境地区の仮設住宅団地集会所や石巻市内の復興公営住宅集会所及び地域の会館等	小松佳代子 秋山美佳子	2	石巻市開成・南境地区の仮設住宅団地住民、石巻市内の復興公営住宅住民及び近隣住民	心の復興、YAHOO! 基金	◆サロン活動94回 延べ879名参加 ◆イベント開催23回 延べ1148名参加 主なイベント及び参加者数 ◆あけぼの北復興公営住宅夏祭り参加者200名 ◆大橋仮設夏祭り参加者280名 ◆仮設農園収穫祭参加者87名 ◆仮設サロン活動文化祭参加者110名 ◆仮設イベントひな祭り会日立市高校生受入73人	◆サロン活動の実施により、閉じこもりがちな仮設住宅や復興公営住宅での暮らしの中での外出の機会をつくることができ、住民の体調不良や心の問題へのリスクが低減された。 ◆共通の趣味を分け合える場を用意することで、人間関係をつくり、気心の知れた仲間との繋がりを保つことができ、住民の孤立化を防ぎ、既に復興公営住宅でも起こっている孤独死の防止に繋がった。 ◆サロン活動からサークル活動等への自立を支援すること、サロンの講師を外部からだけでなく住民の中からも積極的に登用すること、活動の運営や連絡、広報等を住民にも協力してもらうこと等により、住民それぞれができることに合わせて出番を用意することに繋がり、彼女ら彼女の生きがいづくりに繋がった。 ◆被災した人たち同士の狭いコミュニティの中では、震災のときの体験や、現在の辛い気持ちを打ち明けることが憚れる場合も多いが、他所から来たボランティアが傾聴することで、それらを打ち明けるきっかけを作ることができ、住民たちの心のケアにつながった。 ◆当団体の活動を、地元紙を含めた新聞その他のメディアに掲載してもらったりブログやSNSおよび月に1度のメールマガジン、サロン活動のノウハウをまとめた冊子を発行、及び毎年都心で開催する報告会などで活動報告を行うことにより、被災地内外での風化防止に繋げることができた。	◆市役所や県との連携体制の強化。 ◆行政や他団体との連携体制の強化。 ◆活動資金の確保。	「仮設住宅に関して」 ◆住民が減っていくことに対する取り残され感から不安や孤立を感じないよう定期的な訪問や活動が必要である。 ◆仮設住宅に残された方は低所得者や高齢の方が多いため、社協や行政と連携した対応が益々必要になって来ると思われる。 「復興公営住宅に関して」 ◆住民の方々の自立を考え、こちらからアプローチするというよりは自治会や住民からのニーズに沿った活動が必要になると思われる。 ◆社協やコミュニティ形成のために市から委託を受けている団体と連携し、イベントやサロン活動を開催していく。
(1)石巻市民に対する活動の機会及び情報提供事業	復興の担い手育成	石巻に恋しちゃった♡事業	収益	地域や人の魅力の再発見と創出を行い、地域愛を育むと同時に活性化へと繋げる。趣味や特技をテーマとした地域内の交流を育むことで、コミュニティの繋がりを強化する。地域住民の小さな一歩を応援し、出番を作ることで、震災後に失われた自信の回復を促す。誰もが達人として活躍できる場を用意することで、地域内に新しいことにチャレンジしやすい土壌をつくる。	石巻・東松島・女川の地域資源の発掘・発信およびそこに暮らす個人の趣味や特技、地域の魅力を活かした体験プログラムを一定の期間に実施し、一人一人のチャレンジを応援する。	通年(準備・開催・振り返り)(開催期間は約1か月)	石巻・東松島・女川	伊藤知美 柏原としこ	1.5	◆達人:石巻市、東松島市、女川町にお住まいか在学、通勤している方およびご出身の方 ◆参加者:全世界	◆みやぎ地域復興支援助成金 ◆オオバまちづくり基金 ◆外国人観光客案内ガイド育成事業委託金 ◆自己資金	◆第10回石恋開催(2017.11.3～11.26) ⇒プログラム数100、参加人数のべ1077名、達人102名(内新達人33名)。オープニングイベントの開催。 ◆石恋サンファンまつり開催(2017.7.17) ⇒入場者数1800名、出店者30名。 ◆石恋博覧会実施(2018.2.17) ⇒参加総数130名、(内、達人40名) ◆外国人観光客おもてなしガイド養成講座実施(2017.11.26～2018.2.12)。 ⇒受講生17名、座学1回、石巻市3回、東松島市1回、女川町1回。 ◆第1回(2013.2月)から第10回(2017.11月)の開催実施。 ⇒参加者総数8716名、プログラム総数543、達人数230名。 ◆広告収入 923,000円(前回比129%アップ) ◆プログラム出展料 474,897円(145%アップ)	・達人による独自開催イベントの多数開催。 ・石巻圏観光推進機構(DMO)主催のイベントに講師として複数採用される。(ヨガ、薬膳料理、カヌー、こけしなど) ・達人への講師依頼多数。 ・他イベントへの出展の増加。 ・石恋運営委員会の活性化。	◆運営委員会主体の活動⇒月1回運営委員会の開催。 ◆達人の自立支援 ◆運営資金の確保	◆「みやぎ地域復興支援助成金」に申請中(結果:6月末)。 ◆博覧会(見本市)を通して、地元で講師を探している人と講師(達人)をマッチングする機会をつくる。 ◆オオバまちづくり基金にて、海の日に石恋まつりを実施。
(3)石巻市及びその周辺の非営利団体、企業、自治体等とのネットワーク形成に関する事業		地域起業・新事業活動拠点運営事業		宮城県内の起業家もしくは経営者らの創業支援拠点の運営とこれまで支援した受益者らのフォローアップを継続的に実施し、産業発展に尽力する。	宮城県内の事業者に対し、セミナー等の創業支援と交流サロンのコミュニティ創出。醸成事業を行う。	通年(前期からの継続事業)	石巻市内	兼子政慶	1	宮城県内にて事業を営む事業者や経営者又、潜在している起業家	◆宮城県からの委託金 ◆自己資金	◆経営相談対応件数述べ156件 ◆起業家交流促進事業の開催8回 ◆創業経営のための基本セミナー開催2回 ◆創業経営のための基本セミナー参加者数述べ22名 ◆特許証明書発行可能支援者数述べ19名(うち発行件数10件) ◆交流事業参加者述べ109名 ◆オリジナルセミナー開催2回 ◆オリジナルセミナー参加者11名	本事業の経営相談やセミナーなどによる、新規創業支援件数述べ8件	◆地方の特性(車社会、ノマドワーカーがごく少数)による、ドロップイン利用数の低迷 ◆セミナーなどのベネフィットと受益者ニーズのミスマッチ ◆市からの事業委託終了後の展開	◆次年度より石巻市より業務委託を受ける事業となる。 ◆事業の形式はこれまでと変わらないが、オリジナルセミナーが1回、交流サロンが2回、交流サロンよりも段階レベルアップした交流事業が2回となる。また、現在(2018/3/28)時点で未定だが、拠点を移しより市民に利用してもらえるスペース設計も検討中である。

石巻復興支援ネットワーク 第7期(2017年4月～2018年3月)事業報告

定款第5条における事業	事業の柱	事業名	収益/非収益	事業の目的	事業内容	事業実施日時・期間	事業実施場所	事業マネージャーおよびスタッフ	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	活動資金	今期の事業の成果(アウトプット)・何回開催した、など「やったこと」「できたこと」	今期の事業の成果(アウトカム) ⇒左の結果、地域に「起こったこと」	今後の課題	第8期以降の展開イメージ、課題	
(8)その他、石巻市復興に関する事業	震災の教訓を伝える	10	石巻復興コーディネート事業	収益	被災地のニーズと被災地外の支援ニーズとをマッチングすることで、震災の風化を防ぐとともに、復興を加速させ、地域の活性化へと繋げる。	被災地での支援活動を希望する個人、企業、NPOに対し視察、ボランティア、研修などのプログラムを企画し、提供する。	石巻市及びその周辺地域	兼子佳恵、山口智大、萱場祐子、小松佳代子、秋山美佳子、柏原としこほか	6	被災地での人材研修、ボランティア作業および視察を希望する個人、企業、NPOなど	自己資金、企業その他からの委託費	「復興支援活動&視察の実績」 ◆積水ハウス(株)(4月～6月)(462名) ◆大日本印刷(株)(7月22日)39名、(10月13,14日)34名 ◆三越伊勢丹グループ労働組合(5月～7月)(46名)、(10月～11月)(53名) ◆MDRT日本会(9月9日)(114名) ◆MDRTブルデンシャル会(9月24日)(124名) ◆NTN(株)(9月6-8日)25名 ◆(株)DENSO(7月21,22日)42名 ◆ブルデンシャル生命仙台支店(10月13日)30名 「視察」 ◆昭和女子大学ユネスコクラブ(3月15日)(34名) ◆アレイア湘南中学校(8月9日)(8名) ◆前進ユニバー「津波防災研修女性のリーダーシップ」研修(11月6日)(約40名) 「講演」 ◆宮城県地域女性連合会9月28日(10名) ◆せんだい豊前学園1月19日(約130名) ◆親子でつらう！非常持ち出し袋ワークショップ(2月24日) ◆京都府亀岡市立人権福祉センター(3月10日) ◆中央大学NPO(NGO)部(7月、12月) ◆沼津市防災講座(11月21日) ◆石巻市立広瀬小学校(11月5日) ◆専修大復興ボランティア学(7月22日)ほか 「その他」 ◆(株)富士通エフサス研修補助(みやぎ連携復興センター)(9月13-15日)	◆石巻圏域での企業研修やボランティア活動の受け皿として、またボランティアニーズを持つ石巻圏のNPOや市民活動とマッチングできるハブとして実質的に機能している。 ◆特に仮設住宅や復興住宅での清掃活動は、当団体ならではのコーディネートとして高い評価を得ている。 ◆三越伊勢丹グループ労働組合やブルデンシャル生命等のボランティアでは活動にリピーターとして参加して下さる方がいる。また、その方たちが他の社員の方に参加を勧めるという循環ができています。 ◆繰り返し活動する中で、仮設住宅にお住まいのときに清掃したお部屋の方と、復興住宅で再会するという事も起こっている。 ◆リピーター参加者の中には、清掃活動その他について改善提案や次回のためのリクエストをして下さる方もいる。	◆石巻の復興の現状のキャッチアップ。 ◆ボランティアニーズのある団体や活動のリサーチ。 ◆ボランティアから観光や交流人口拡大へどうつなげていくか。 ◆業務の効率化 ◆提供価値を高めるための企画のブラッシュアップ。 ◆収益事業としての確立。	◆継続実施予定(積水ハウス、三越伊勢丹グループ労働組合、MDRT日本会など) ◆新規顧客の獲得 ◆スタッフが持ち回りで携われるように、仕組み化・マニュアル化する(使用資料やファイルの整理)。	
(5)石巻市内における雇用の創出及び起業促進等関連する事		11	グッズ販売	収益	被災の経験を生かした防災商品を販売し、防災意識の向上と被災時の被害軽減に尽力する。	無事かえるシリーズの商品監修、販促	通年(前期からの継続事業)	全国各地	兼子佳恵 兼子政慶 松坂久子	3	全国の防災意識を認識しているコミュニティ層	自己資金	経常売上利益:¥116,466	・無事かえるシリーズは、「かえるのピクルス」ファンを中心に、売れている。 ・石田裕之さんの紹介と思われる客層(親子など)から、CDが地道に売れている。 ・ナカジマコーポレーション様の関係を通じて、寄附がある。(ドリームポケット様、ぐるっとプレスレットワークショップ様など)	現在庫の販促	無事かえるシリーズ第5弾(内容は現在思案中)の展開
		12	管理部門および共通	非収益	適切な事業管理と、組織運営を行うことで、活動の成果を最大限に高める。石巻の復興の現状や課題、団体活動の進捗を報告、発信することで、支援の継続や新たな支援の獲得に繋げるとともに、震災の風化を防止する。組織体制の見直し(事務スタッフの雇用を含む)、ルールや規約の整備、目標管理など組織内部のマネジメントを高め、事業推進力を向上させるとともに、スタッフがより力を発揮し、成果を生み出せる組織づくりを行う。また、組織の基盤強化を行うことにより、自主財源率の向上と自立的、自律的な組織経営を目指す。	◆拠点の引越し ◆規定およびルールの策定 ◆全体mtgの運営 ◆理事会、総会の開催とその準備 ◆監督官庁への報告 ◆事業計画と事業報告の作成 ◆総務 ◆経理 ◆人事(新スタッフの募集) ◆メルマガ(やっべす通信)の発行(月1回) ◆ブログやFB、Twitterでの情報発信 ◆「やっべすの輪、活動報告会」 ◆年次報告書(2016年度)の作成 ◆各種取材、調査やアンケートへの対応 ◆助成財団や支援者、行政や関係各所とのやりとり ◆寄付対応 ◆NPO連絡会議への幹事団体としての参加	通年	事務所	兼子佳恵、山口智大、萱場祐子、兼子政慶	4		自己資金	◆スタッフ全体mtgの月1回開催。 ◆3月9日、日本財団ビルにて活動報告会の開催(参加者36名) ◆関係省庁への報告 ◆団体全体の管理運営 ◆決算書類、事業報告書を税務署および所轄庁に遅滞なく提出した。 ◆各種保険、賃貸に関する取引を更新した。 ◆日々の経理、総務、労務に関する業務を遂行した。 ◆メールマガジンの継続発行(月1回)(登録者数:3,818名) ◆2016年度活動報告書の作成と発行 ◆サポーター会員募集(13名⇒12名)(3月末現在)(3,000円×1名、1,000円×6名、500円×5名、合計11,500円/月) ◆ブログやFB、Twitterでの情報発信 ◆フォロー(フェイスブック)数:2992⇒3225(5月21日現在) ◆各種取材、調査やアンケートへの対応 (MAQUIA、Voce、県政だより、石巻市市報、河北新報、石巻日日新聞、石巻かほくなど) ◆ふるさとづくり大賞内閣総理大臣賞受賞 ◆代表理事がチャンピオン ◆オブ ◆チェンジ大賞2017年度ファイナリストに選出	◆スタッフの自主性の向上 ◆テレワークの開始 ◆固定費の削減 ◆赤字からの脱出	◆事業費の獲得 ◆新規収益事業の検討 ◆朝メール、タメールの定着 ◆Googleカレンダーの活用(コミュニケーションの活性化) ◆プロジェクトマネジメントの定着と活用。 ◆業務の更なる効率化。 ◆各事業の事業進捗管理、予算管理の定着。	◆3月8日(金)に報告会を開催予定。「以下キックオフミーティングより」 ◆徹底した情報共有 ◆団体の財務状況は、毎月ないし、四半期ごとに共有します。 ◆振り返りのmtgを年に3回開催。 ◆すべてのMTGは議事録を取って、それを掲示板上でファイルにアップする。 ◆事業収益についてmtg(7月か8月)。 ◆個人面談(年1回) ◆集中エリアとコミュニティエリアとに分ける。 ◆助成金の報告書も各担当スタッフが一緒に書く ◆代表以外も講演していく。

3 実施体制などに関する事項

(1) 総会の開催状況

①通常総会

- ・開催日時 2017年5月31日
- ・開催場所 石巻復興支援ネットワーク事務所
- ・出席者等 正会員総数11名中8名出席（内、表決委任者4名）
- ・議事内容 第6期事業報告、決算報告の承認、役員を選任、定款の変更について

(2) 理事会および監査の開催状況

- ・2017年5月25日 内部監査
内容：前年度の理事の業務遂行状況及び財産の状況の監査
- ・2017年5月11日 第1回理事会
内容：事業計画、事業予算、役員報酬など
- ・2017年5月31日 第2回理事会
内容：事業報告、決算、事業計画、事業予算、役員報酬など
- ・2017年5月31日 第3回理事会
内容：代表理事などの互選など

(3) 会員に関する事項（2018年3月末現在）

- ・社員（正会員）数：10人（個人10人）

(4) 役員に関する事項（2018年3月末現在）

- ・役員総数：5人（理事4人、監事1人）
- ・代表者：理事（代表理事）兼子佳恵

(5) 職員に関する事項（2018年3月末現在）

- ・職員総数：9人（うち、理事兼任1人）

(6) 情報発信体制に関する事項

- ・ホームページ
団体公式ウェブサイト：<http://yappesu.jp/>
Eyes for future公式ウェブサイト：<http://eyesforfuture-yappesu.jimdo.com/>
石巻に恋しちゃった♡公式ウェブサイト：<http://ishikoi.com/>
Amanecer公式ウェブサイト：<https://ishinomaki-amanecer.jimdo.com/>
おうち仕事公式ウェブサイト：<http://iviento.jimdo.com/>
無事かえるリュック販売サイト：<http://bujikaeru.jimdo.com/>